

技術開発完了報告

米内沢営林署

課題名		新路体林道工法の試験施行について			
継続、自主 区分	署自主	開発 期間	H元～H5	担当	土木係 後藤祐治
目 標	<p>路床の上にベープマットを布設し、路盤内の雨水が路床に侵入するのを防止し、路床の安定を図る。</p> <p>試験林道 … ネギ沢林道 延長 100m 冷水沢林道 ” 72m ” ” 116m</p>				
結 果	<p>ネギ沢、冷水沢両林道は標高 600m～700mに位置し、地形は緩斜地であり、路床の土質の支持力及び路盤の安定度は、比較的良好であるが透水性は、運材車のタイヤに付着した土砂等の目詰りのため、施行時に比較して排水効果が低下している。</p> <p>又、工法に使用した間伐材の一部にも腐蝕が見られる。</p>		技術開発経費内訳		
			<p><人工> 千円</p> <p>物件費 役務費 人件費</p> <p>基 職 < > その他 < > 合 計 〇</p>		
開発経過と調査内容					
平成元年度	透水性、路盤安定度調査	排水効果、路盤の安定度良好である。(ネギ沢林道)			
平成2年度	透水性、路盤安定度、間伐材の腐蝕度調査	排水効果、路盤の安定度及び間伐材の腐蝕もなく比較的良好である。(ネギ沢、冷水沢林道)			

平成3年度	路床の安定度、間伐材の腐蝕度調査	通常の事業で林道を使用しながら路床の状態、路盤の安定及び間伐材の腐蝕もなく比較的良好である。													
平成4年度	路床の安定度、間伐材の腐蝕度調査	<p>運材車のタイヤに付着した土砂等により、路盤材が目詰りし路盤の一部、轍が生じ排水効果が低下している。</p> <p>又、使用した間伐材の一部に腐蝕が見られる。(ネギ沢林道)</p>													
平成元～2年 透水性調査 (ネギ沢林道)															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>降雨量</th> <th>排水量</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>元</td> <td>454 mm</td> <td>373.64 mm</td> <td>5月～9月</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>408</td> <td>324.08</td> <td>5月～11月</td> </tr> </tbody> </table>				年 度	降雨量	排水量	備 考	元	454 mm	373.64 mm	5月～9月	2	408	324.08	5月～11月
年 度	降雨量	排水量	備 考												
元	454 mm	373.64 mm	5月～9月												
2	408	324.08	5月～11月												
<p>評価及び普及指導</p> <p>3路線の調査において、ネギ沢林道については、路盤の轍、間伐材の腐蝕が見られるが、在来工法との比較において、路盤、路床とも安定し、今後もこの傾向が続くものと思われる。</p> <p>以上の調査結果から、一定の成果があったと考えられることから、当、技術開発の完了報告とするが、今後一部林道で見られた土砂等での路盤材の目詰り部分の解消及び間伐材の腐蝕防止とを踏まえ一層効率的な新路体林道工法の確立を検討する。</p>															